



ジブの引込み用ワイヤロープが 切断し、ジブが倒壊

事故を発生した現場は、船舶の造修を主な業務としている事業場である。

引込みクレーンにより荷を渠底に降ろし終えて、ジブの起伏を行ったところ、当該クレーンのジブの引込み用ワイヤロープが切断しジブが渠底に倒れたものである。幸い人的な被害はなかった。

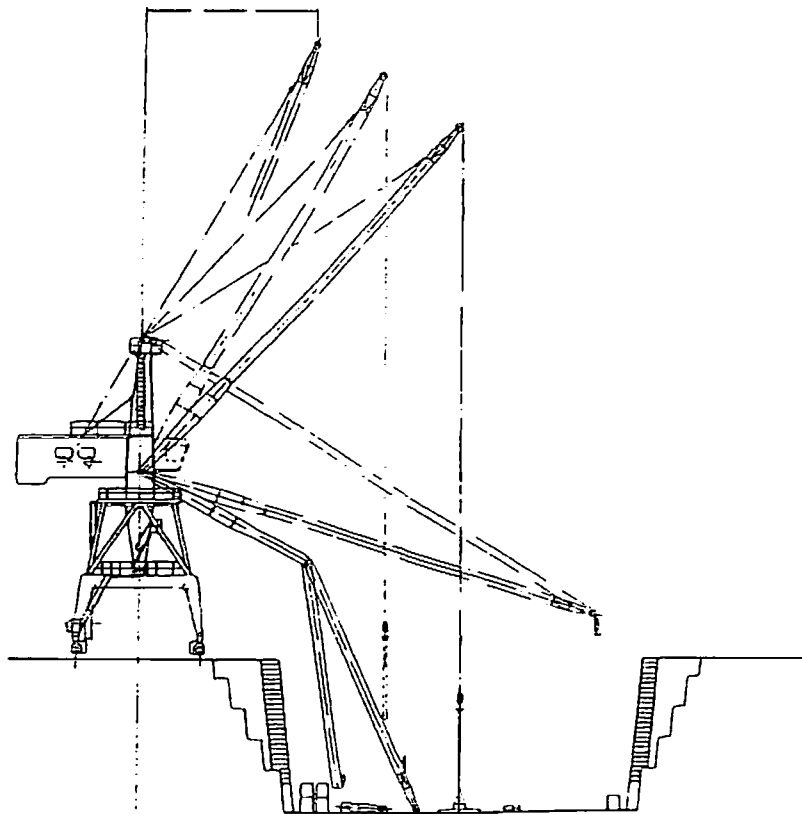
災害発生当日午前8時15分頃、第2修繕ドックに架装中の船舶の推進軸の復旧作業を行うため、ジブクレーン（水平引込みクレーン……つり上荷重10.68t・昭和44年11月製作）によりドック右舷の器具室から当該作業に使用する工器具類（約0.2t）をパレット

にのせつり上げ、渠底の中央付近におろした。

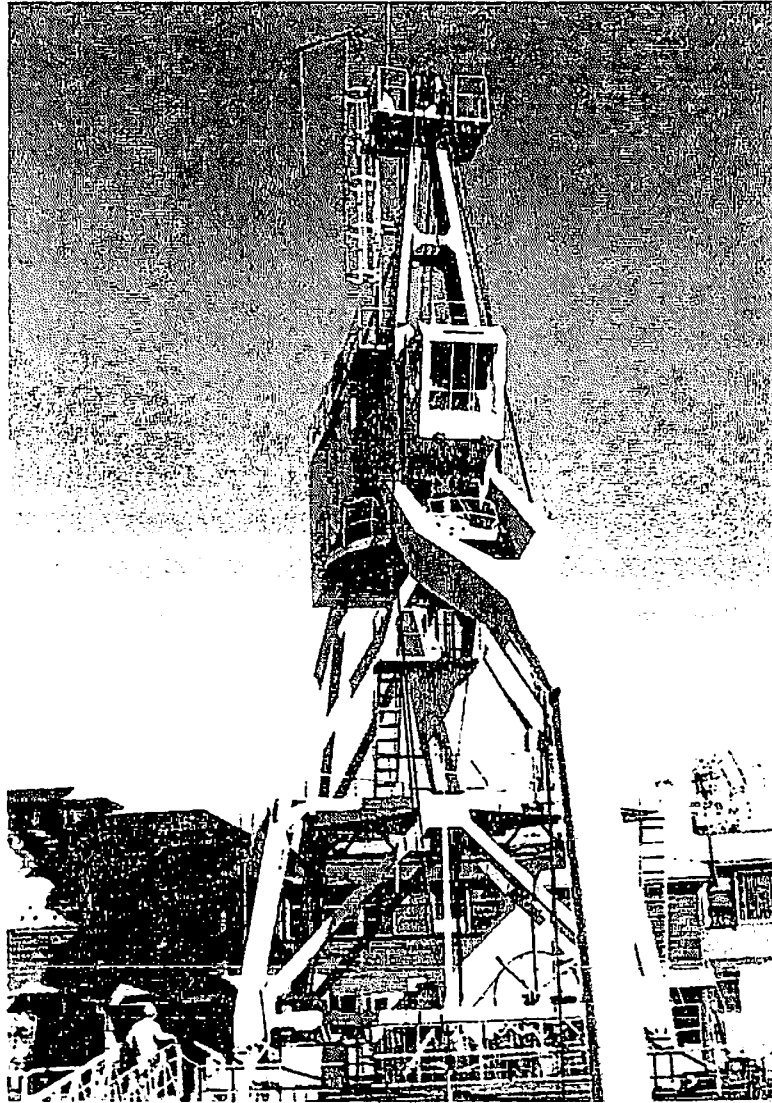
その後、午前8時20分、次の作業にかかるため無負荷でフックを約2m巻上げ、ジブの引きおこしにかかったところ、ジブの引込み用ワイヤロープ（6×37…径24mm）が切断し、ジブがさがりはじめジブの基部がローパスの踊り場に当り、中間部が座屈、そのため先端部が渠底に激突した。

この災害の発生原因としては、

- ・ジブ引込み用のワイヤロープが、クレーン本体のセンターポスト頂部の滑車から外れ、点検用ステージの床材に繰返し擦れたため、素線切れをおこしたこと。



ワイヤロープが切断しドック渠底に倒れたジブクレーンの模式図



倒壊したジブクレーン

- ・定期自主検査が適正に実施されていなかったこと。

- ・作業開始前の点検が適正に行われていなかったこと。

等が挙げられる。

したがって同種災害の再発を防止するためには、

- ・ジブ引込み用のワイヤロープが、センターポスト頂部のシーブから外れないように外れ止めを設けるなどの設備面の改善を図ること。

- ・定期自主検査や作業開始前点検の実効を期すために、

実施体制の確立

検査項目、検査方法及び判定基準の見直しを行うこと。

点検担当者に対する教育の実施等の人的面への配慮も必要である。

〔注〕 この災害の発生に関し、事業場ではクレーンのジブの傾斜角を最大にした時に、ジブが急激に揺れるような操作をした場合、引込み用ワイヤロープにかかる張力が弱くなることを考慮し、上記の各対策に加え、最小作業半径より2m手前で運転が停止するようリミットの調整を行った。